

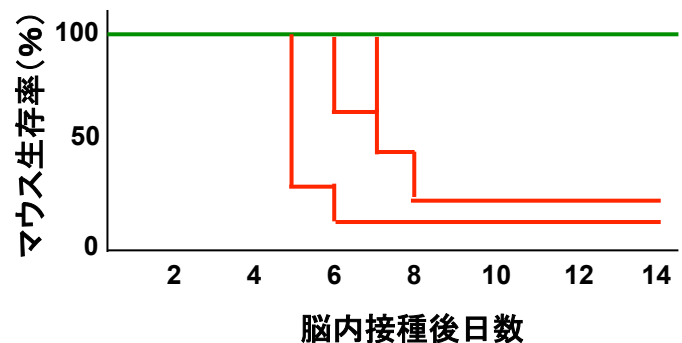
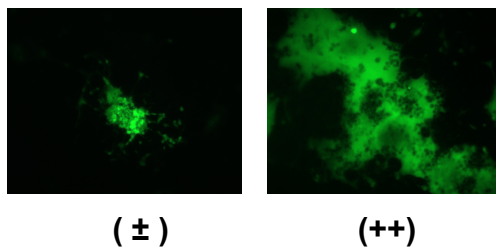
SSPEウイルスの変異Mおよび変異Fタンパク質の共同による 神経病原性の獲得

研究分担者: 神戸大学大学院医学研究科微生物学分野 堀田 博

SSPEウイルス変異を有する遺伝子組換え麻疹ウイルスの作製

SSPEウイルス変異を有する遺伝子組換え麻疹ウイルス	細胞融合能 (神経芽細胞腫)	神経病原性 (マウス脳炎死)
rMV/IC-B	(±)	(-)
rMV/sspeM	(±)	(-)
rMV/sspeF	(±)	(-)
rMV/sspeH	(±)	(-)
rMV/sspeMF	(++)	(++)
rMV/sspeMH	(±)	(-)
rMV/sspeFH	(±)	(-)
rMV/sspeMFH	(++)	(++)
rSSPE/Kobe-1	(++)	(++)

神経芽細胞融合能の比較 (10 dpi)



解 説

1. SSPEウイルスKobe-1株では、変異Mタンパク質と変異Fタンパク質の共同作用により、神経細胞融合能が著しく増強することがわかった。
2. 上記の変異Mタンパク質と変異Fタンパク質の共同作用により、マウスに対する神経病原性が発現されることがわかった。